



TIME

TIME



近代建築の巨匠ミース・ファン・デル・ローエは「神はディテールに宿る」という信念のもとに細部にまで注意を払いました。優れた音楽演奏や録音も、再生やオーディオ機器についてもまた、デル・ローエと同じことがいえます。

アヴァロン・アコースティックのスピーカーは、ディテールの表現と音楽の持つ本来の力を再現したいという情熱によって設計、製作されています。すべての開発は感動からはじまる、というのがこのプロジェクトのチーフデザイナーであるニール・パテルの哲学です。細部を克明にあらわすことによって、音楽情景の全体像を聴き手の前に立体的な質感で浮かび上がらせられるスピーカーをお届けしたい、アヴァロンはそう考えています。

タイムは音楽表現においてスピーカーの新基準を作り上げたアイシスの設置条件に柔軟性を持たせる、という目的で開発されました。全てのアヴァロン基準を満たし、極めてナチュラルな音楽を心ゆくまで楽しませてくれるスピーカーなのです。豊かであざやかな音色、非常に幅広いダイナミックコントラストが正確無比に焦点を結び、録音情景の空間さをも聴き手の前に再現してくれるのです。アヴァロンのスピーカーメーカーとしての挑戦は「空」なるスピーカーという、禅の教義に喩えられるスピーカーを理想とします。水がさまざまな形の容器にすやかに納まっていくように、どんな音楽にも対応し、柔軟に、演奏情景を伝えるスピーカー、それこそが理想であるわけです。

ドライバーユニット、クロスオーバーパーツ、キャビネット、ケーブル類、は全てアヴァロンの設計によるものです。アイシスが既にあるとはいえ、アヴァロンの理想をもとめるには、アイシス設計と同様、「空」という理念のもとにうまれたスピーカーがタイムです。

スピーカーデザインでは、批判的で分析的な聴き方が音質決定での最重要プロセスです。精密な最先端の測定機器を駆使することはたしかに大切ですが、しかしこれは最上の絵の具と絵筆を手にしたに過ぎず、必ずしもすばらしい絵が描けるという保証にはなりません。

設計における課題は、音楽を創る音楽家と聴き手の間に感性の融合や連帯感を感じ取れる作品を創ることです。この空気を築けるスピーカーならばこそ、聴き手はその音と演奏のすばらしさを賞賛せずにはいられないと感じるのです。アヴァロンの飛び抜けて秀でた点はただ一つ、今までのどの音楽再生よりもよりリアルで生命感のある点です。

スピーカーサイズは一般家庭のどの部屋に置いても違和感のない大きさにするために、タイムには理想的な初代アセントを思わせるデザインをあてがいました。新クロスオーバーネットワークはタイムのためだけに設計しています。トポロジー(位相幾何学的な回路)も、ノイズを低く抑えており、大量のトランジェント電流の変動に対する磁界ひずみを生じることなく対応します。受け持ち帯域に対して使用されるケーブルは特別に各ドライバーの受け持ち帯域に見合うようにそれぞれ開発しました。内部配線用ケーブル類は超高純度ロングクリスタル鋼材を使用、アヴァロン独自の技術でワインドされたものです。

タイムはアイシスと同様1インチダイヤモンドトゥイーターによって高域をよどみなく再現します。使い慣れたセラミックミッドレンジドライバーに加えて二重磁気構造という協力型のノメックス・ケブラーによる28cmウーファードライバーを2機使用することで、音に厚みを加えています。この方法はアイシスのデザイン手法をふまえたものです。

キャビネットはウーファー能力に合わせて内部ボリュームを十分に取り、なおかつスピードのあるドライバーモーションを保証します。

抜けるような透明度で感動を与えてくれるようなイメージングは、より低いノイズフロアと混変調ひずみという2つの要因のシナジー効果によってもたらされます。ノイズフロアを下げるほど、ノイズの中に埋もれていた大量のローレベル情報が鮮明に浮かび上がってくるのです。蓄積されたエネルギーは安定的なイメージングにとって害悪となります。この繊細で微妙な情報の手がかりとなる音楽信号は、正確なイメージングには必要不可欠なのです。イメージングの大敵である混変調ひずみと位相ひずみが最低限に押さえられ、その他のシステムが高次元の解像度で働けば、位相ノイズによる曖昧さの無い、優れたピンポイントイメージをもたらします。これこそ神はディテールに宿る、という箴言を音楽再生の領域で実現したものである、とアヴァロンは考えます。パワーレスポンス、増幅度反応、位相反応、過渡特性を精度高く、細やかさを追い求め、極めてナチュラルな音色、音質を得ることができました。

アヴァロンの音を決める最高責任者ニールパテルは最初に音楽の構成だけを集中的に聴きます。音楽の構成は音そのものから独立しています。かんたんな例を挙げてみましょう。聞き慣れた部屋でクラシックギター一本による音楽が演奏されます。個人的な嗜好がどうであれ、この音には客観的に一貫した多くの特質があります。私たちは指が弦をはじき、アタックがナイロンのように、またはナイロンを巻いたスチールのように、しかしエレキギターの弦とはまた違った音色で鳴ることを知っています。

私たちは弦の音がギターの箱鳴りよりも速く出てくることも知っています。また、ギター本体の実際の大きさを知っています。その部屋の共振はギターそのものの共振に続くと言ったことも知っています。共振は室内で均等に、定期的に消えていき、しばしばギターが演奏会場の壁からはね返ってくることも知っています。誰でもこのことを聞き取れます。ではなぜ私たちはこの一連の動きを正確に再生しないトランスデューサーやシステムを受け入れるのでしょうか。このことへの非常に重要な点の一つは「時間に注意を払う」ということです。もしも時間に厳しい耳をもって聴いていけば、音楽の構成はトランスデューサーの中で正確に作られていることに気づきます。ここから、カラーとかダイナミクスといった問題が比較的簡単に分かってくる。

ニールはタイムを長期にわたり聴き込みました。最終判断にはクロスオーバーの洗練度とのコンビネーションで一日に18時間以上も聴いたそうです。録音された音楽の違いが一番分かるアコースティック楽器の演奏を聞き込みました。室内楽、オペラ、クワイアー、大編成のオーケストラ、ジャズアンサンブル、フォーク等です。電気によって増幅されたジャズ、ロックはそれとはまた別の視点興味深いパースペクティブを提供しますが、オペラなどから比べればこの点を正しく得ることは易しいのです。ソースはアナログ、デジタルの両方を使用し、市販のCDディスク、マスターテープ、デジタルマスターなどです。さらにはニールパテルやアヴァロン独自の録音も使われます。非常に複雑に入り組んだものもあれば、水が流れているという単純なものもあります。最後に、マイクを実際に通したテストを行います。これは非常に有効なテストの一つです。マイク二本がスピーカーとは別の部屋に置かれ、そこでピアノを演奏するとリアルタイムでその音がシステムに入ってきます。記録というプロセスがないために音楽構造によってはトランスデューサーの持っている能力がくせずに路程するのです。

ここまでくれば、最後にはスピーカー自身を「空」にして、その存在を音楽に捧げることが重要であり、必要なのです。偉大なオーディオ機器は、聴き手が音に身を添えて聴けるものです。可能な限りの透明度を伴って演奏を再現できること、これが偉大な真のテストである、とニール・パテルは考えています。アヴァロンは、はっきりと目的を理解して、到達するまでは、あらゆる努力を行って理想を具現化するメーカーなのです。



Specifications

ドライバーユニット	2.5cm ダイヤモンド振動板トゥイーター 9cm セラミックドームミッドレンジ 28cm ノメックス、ケブラーコンボジットコーンウーファー (ダブル磁気回路)	周波数帯域	20Hz - 50kHz
能率	89dB	推奨アンプ出力	50 - 600w
インピーダンス	4Ω (ノミナル)	外寸	300mm(W) × 1170mm(H) × 480mm(D)
		質量	75kg

このカタログに記載の仕様、規格、および外観などは改善のため予告無く変更することがあります。また、図版の色彩は印刷インキや撮影条件などにより、実際の色と異なる場合がございます。あらかじめご了承下さい。

